

新たな取組による強化

取組 1：対策を強化するエリアの拡大を検討

[対策強化流域]

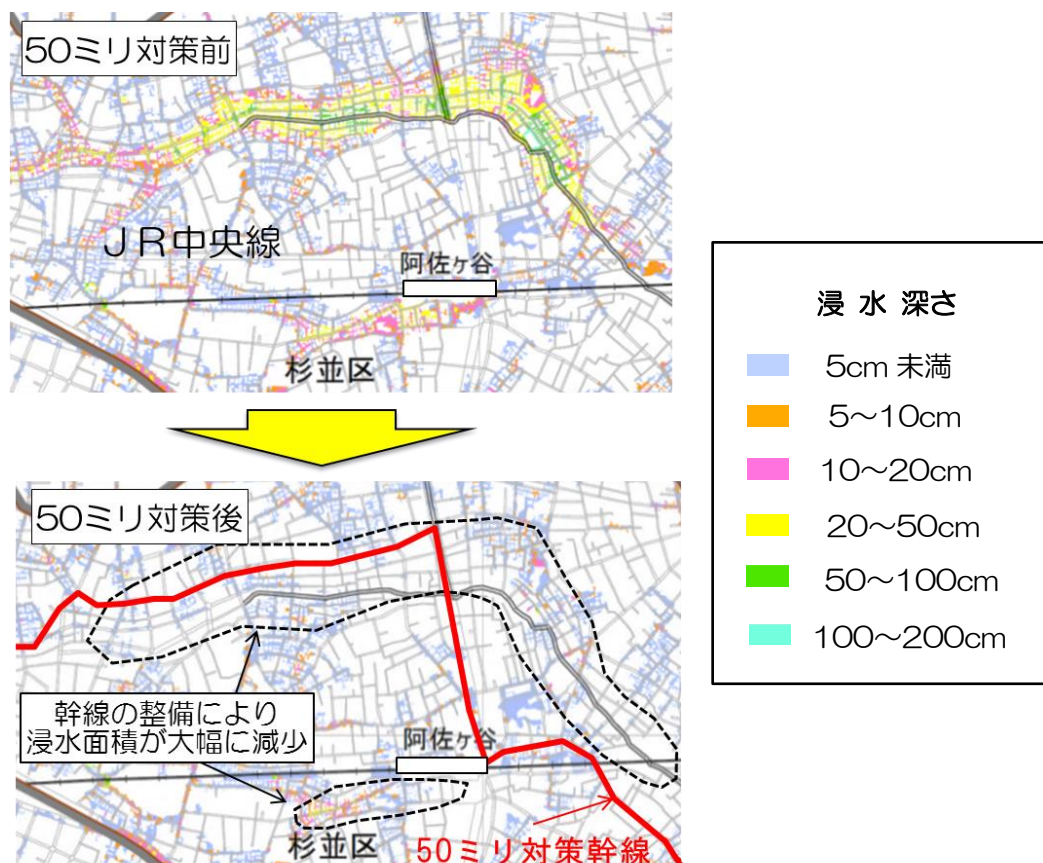
- 河川整備にあたり、浸水被害の発生などを踏まえ、豪雨時の浸水リスクや被害想定などの指標に基づき、区部で時間 75 ミリ降雨、多摩部で時間 65 ミリ降雨対策を推進する対策強化流域の追加を検討します。
- 貯留浸透施設の設置にあたり、近年の降雨状況を踏まえ、都の補助対象となる対策強化流域の追加を検討します。

[対策強化地区]

- 下水道整備にあたり、区部全域で時間 75 ミリ降雨があった場合の下水道施設の能力検証をシミュレーション技術の活用により実施し、浸水の危険性が高い地区について新たな 75 ミリ対策地区等を追加します。下図のとおり、50 ミリ降雨対策により、75 ミリ降雨に対して大きく浸水しない地区もあり、新たな 75 ミリ対策地区等が必要な浸水の危険性が高い地区を重点化し、整備を推進していきます。

<シミュレーション技術の活用>

50 ミリ降雨対策により、75 ミリ降雨に対して浸水面積の低減を確認



取組 2 : 流域対策モデル事業

- ・ 浸水被害が発生しているエリアを選定して区市とともに重点的に貯留浸透を実施し、モデル事業として地形的な条件などを踏まえた施設の効果的な設置方法（貯留型・浸透型）などを検証します。
- ・ モデル事業の実施にあたっては、区市等と連携し、都民意識の向上を図ります。
- ・ 公共施設の改築更新に伴い、雨水流出抑制施設を設置する際は、区市の雨水流出抑制に関する指導要綱等に定められた対策量以上の貯留浸透施設の設置（対策量の上積み）を促進します。
- ・ 区市と連携し、個人住宅の敷地に雨水浸透ますなどを設置する際の設置者負担を軽減します。

＜公共施設における対策量の上積みイメージ＞

